

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション教育演習 (2単位)	3. 科目番号	EIJP3171						
2. 授業担当教員	内藤 伊都子								
4. 授業形態	講義、グループワーク、ディスカッション	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「異文化コミュニケーション教育」を履修していることが望ましい。								
7. 講義概要	<p>異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化トレーニングは主に知識学習と体験学習に大別されるが、講義では知識学習としてトレーニングの種類や内容、効果など認知的側面を扱い、個人による作業も取り入れていく。</p> <p>実践では体験学習としてクラスで実施可能なペアワークやグループワークなどを取り入れながら、異文化コミュニケーションの情動や行動の側面についても訓練していく。また、トレーニングの実践後にはディブリーフィングやディスカッションなども実施し、ルールの違いや行動の意味などについて考えていく。</p> <p>クラスのサイズによってトレーニング内容を調整しながら実施していく。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の環境での生活やストレスとのコミュニケーションに先立ち、擬似的に体験したり能動的に行動したりする訓練を通して、経験的知識を習得する。</li> <li>2. 擬似異文化の社会的相互作用や人間関係の調整における情動を体感し、自己理解や成長を図り、説明できるようになる。</li> <li>3. トレーニングを通して、問題の早期認識や判断、対応する力に結び付けできるようになる。</li> </ol>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておく。 事前学習・事後学習の確認として、適宜口頭発表や小テストを実施する。</li> <li>2. ルールの違いや行動の意味について考察する。</li> <li>3. 自身のコミュニケーション行動とともに、情動についても振り返って分析する。</li> </ol> <p>※ 2と3については、事例課題レポートやトレーニング実践後のディブリーフィング・レポートとして提出する。詳細については、講義内で指示する。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜講義で配付する。</p> <p>【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の環境での生活やストレスとのコミュニケーションに先立ち、擬似的に体験したり能動的に行動したりする訓練を通して、経験的知識を習得できたか。</li> <li>2. 擬似異文化の社会的相互作用や人間関係の調整における情動を体感し、自己理解や成長を図り、説明できたか。</li> <li>3. トレーニングを通して、問題の早期認識や判断、対応する力に結び付けできたか。</li> </ol> <p>○評定の方法 以下の点を総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. トレーニングの実践やグループワークへの参加程度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2. トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションでの発言の程度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>3. 試験・レポート</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。</p>			1. トレーニングの実践やグループワークへの参加程度	総合点の 40%	2. トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションでの発言の程度	総合点の 40%	3. 試験・レポート	総合点の 20%
1. トレーニングの実践やグループワークへの参加程度	総合点の 40%								
2. トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションでの発言の程度	総合点の 40%								
3. 試験・レポート	総合点の 20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>配付資料は熟読し、授業に持参すること。</p> <p>グループワークを実践するため、授業には遅刻せず出席することが肝要である。</p> <p>トレーニングやディスカッションに積極的に参加し、率先して行動すること。</p> <p>文化背景の異なる人々との交流に興味を持っていることが望ましい。</p> <p>自身や周囲のコミュニケーション状況と関連付けたり、自身の行動と文化背景の異なる他者の行動を比較したりしながら受講すること。</p>								
13. オフィスアワー	初回の講義内で通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや内容について把握しておく。						
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。						
第2回	異文化トレーニングの背景	事前学習	異文化環境下で生活するために必要なことはなにか考えてみる。						
		事後学習	異文化トレーニングの始まりや歴史的背景について整理しておく。						
第3回	異文化トレーニングの種類	事前学習	異文化を知るためにはどのような方法があるか考えてみる。						
		事後学習	知識学習と体験学習についてそれぞれ整理しておく。						

第4回	異文化コミュニケーション能力	事前学習	自身が所属する社会で必要とされる能力とはなにか考えてみる。
		事後学習	文化背景の異なる環境で必要とされる能力について整理しておく。
第5回	スキル・トレーニング 事例課題レポート	事前学習	目に映ったものやその状況について客観的に表現することを考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第6回	クリティカル・シンキング	事前学習	日頃当たり前と思っていることに対して、再考してみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第7回	アサーティブ・コミュニケーション 事例課題レポート	事前学習	自分の意見を伝えられなかった経験があれば振り返っておく。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第8回	クリティカル・インシデント	事前学習	困難な状況に陥った経験があれば振り返っておく。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第9回	シミュレーション(1) 言語コミュニケーションによるゲーム ディブリーフィング・レポート	事前学習	メールや電話と対面のコミュニケーションの違いについて考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第10回	シミュレーション(2) 非言語コミュニケーションによるゲーム ディブリーフィング・レポート	事前学習	自分の考えを非言語だけで伝えることを考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第11回	人間関係トレーニング	事前学習	自分とは立場や役割が異なる人々について考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第12回	シミュレーション(3) 異文化探査 ディブリーフィング・レポート	事前学習	知らないことや分からないことを知るための手段を考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第13回	シミュレーション(4) 異文化交流 ディブリーフィング・レポート	事前学習	知り合いもない初めての環境に入ったときの経験があれば振り返っておく。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第14回	異文化トレーニングの効果	事前学習	これまでのトレーニングを通して気づいたことがあればまとめておく。
		事後学習	自身のトレーニングを振り返り、どのような効果があったか自身の考えをまとめておく。
第15回	総括：既習内容の振り返り、重要ポイントのまとめテストと解説	事前学習	既習内容について振り返り、総復習をしておく。
		事後学習	ディブリーフィングについて全体的にまとめておく。